

若手・中堅の会企画シンポジウム

若手・中堅が想像（創造）する、これからのカウンセリング

企 画：日本カウンセリング学会 若手・中堅の会

企画・司会：新井 雅（跡見学園女子大学・本学会若手・中堅の会）

話 題 提 供：下條杏納（跡見学園女子大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻）

西塚拓海（北海道医療大学大学院心理科学研究科博士後期課程・医療法人研成会 札幌鈴木病院）

鎌田真実（北翔大学）

指定討論者：田中勝則（北海学園大学・本学会若手・中堅の会）

<概要>

予測困難で不確実、複雑で曖昧な状況（volatile、uncertain、complex、ambiguous：VUCA）が、より一層進行している近年の社会において、人々の多様な生き方を支えるカウンセリングの役割は重要性を増している。様々な個性や背景を有する一人一人が、苦悩や困難を乗り越え、心身の健康を保ちつつ、相互に協調し、自分自身や家族、地域コミュニティ、社会全体のウェルビーイング（well-being）を目指してより良く生きていくことができるよう、カウンセリングの実践・研究・教育等に関わる者はどのような役割を果たすことができるかが大きく問われていると考えられる。

特に、目まぐるしく変化し続ける社会情勢の中では、カウンセリングに関して伝統的に行われてきた実践・研究・教育の在り方を大切にしつつも、新たな視点でそれらの活動を柔軟に変化・発展させていくことも重要である。ここでは、必ずしも何らかの「答え」や「正解」があるわけではなく、誰かが明確な「答え」や「正解」を知っており、そこへと導いてくれるわけでもないため、カウンセリングに関わる様々な専門家・関係者等が対話を重ねながら、新しく、かつ将来的にも持続可能なカウンセリング活動を協働して創り上げていくことが必要となる。

そこで本シンポジウムでは、若手・中堅の立場から、これからのカウンセリングの実践や研究、教育などの在り方について、自由な発想で議論を行いつつ、新たな取り組みや手立てを想像し、創造していくための示唆を得ることを目的とする。ここでは、「現実的にできるかわからない」「今まで行われてきたことがない」などといった考えで安易に思考を停止させてしまうのではなく、また、誰かに「こうしてほしい」「ああしてほしい」といった他人任せの議論ばかりに終始するのでもなく、将来のカウンセリング活動の主要な担い手となる若手・中堅達自身が、「どのような取り組みをしていきたいか」、「どのような活動、キャリア、ネットワークなどを展開していきたいか」、「そのために自分達はどのようなことができるか」などを、自由に楽しく前向きに議論していくことができるような場としていきたい。